

令和5年度 近畿部会第168回例会

### ■テーマ 近現代記録資料群の編成・記述の実践

～欧米の基本書・マニュアルの有効性を検証する～

■と き 令和6年(2024年)2月2日(金曜日)  
14時00分～16時30分(13時30分開場)

■場 所 キャンパスプラザ京都 2階第2会議室  
住所：京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939  
■京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車、徒歩5分  
以下のウェブサイトを参照のこと。

<https://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>

### ■登壇者

報告1 橋本 陽 氏(京都大学大学文書館)  
報告2 平野 泉 氏(立教大学共生社会研究センター)  
報告3 堀内 暢行 氏(国文学研究資料館)  
司 会 橋本 陽 氏(京都大学大学文書館)

■定員 30名(下記のフォームより申し込み先着順 対面のみで開催です)

■参加費 無料  
※参加には、**事前のお申し込みが必要**です(お申し込み方法は下記参照)。

■お申し込み方法  
必ず以下の参加フォームよりお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/dist/S24094172/>

■お申し込み締切  
令和6年(2024年)1月31日(水曜日)まで

## ■内 容

近畿部会第163回例会では、アーカイブズ学におけるいくつかの基礎概念を取り扱った。本会では、中でも特に「編成・記述」に着目し掘り下げたい。理由は、「編成・記述」が資料公開の上で必須の作業であり、すべてのアーキビストが何らかのかたちで関わる普遍的なテーマであるからである。

意外なことに、日本の「編成・記述」論は、欧米の基本書やマニュアルを参照していないものが多数を占める。有名な段階的整理についても、イギリスの碩学であるマイケル・クック (Michael Cook) の著作1冊が取り上げられるのみである。記述に限っては、ISAD(G)やオーストラリア・シリーズ・システムを参考とする論考があることから、アーカイブズ学先進地域の知見を採用しているように見えるが、それらをどのように全体の整理の流れに取り込んで実務を進めるかは不明瞭なままである。

このような現状に鑑み、本例会では、「編成・記述」の過程を説明する欧米の基本書・マニュアルをもとに、日本の近現代記録資料群を整理できるかどうかについて考察する。対象とするのは、英語のほか、フランス語、イタリア語、ドイツ語の文献である。ヨーロッパでは、古文書整理の経験を基礎としながら、19世紀後半よりアーカイブズ学が発展しており、その点で古文書を大量に保有する日本の状況と類似しているともいえる。一方、アメリカでは、大量に存在する近現代の記録資料群を迅速に整理し、利用に供する手法である More Product Less Process (MPLP) の考えが幅広く支持されている。このようなヨーロッパおよびアメリカの基本的な見解を確認した上で、日本にある記録資料群をどう「編成・記述」するかについて検討する。この問題については、未整理の記録資料群を対象に考察した成果を、実際にその整理を担当したアーキビストが報告する。

質疑応答の時間では、これまでの整理の経験・未経験を問わず、参加者からの自由な意見を募り、活発な議論を行いたい。

## ■当日スケジュール

- ・ 13:30～ 開 場
- ・ 14:00～14:10 挨拶・趣旨説明
- ・ 14:10～14:40 報告1 橋本 陽氏「フランス・ドイツ・イタリアの基本書の概要」
- ・ 14:40～15:10 報告2 平野 泉氏「アメリカのマニュアルの概要」
- ・ 15:10～15:40 報告3 堀内 暢行氏「近代の個人記録資料群への適用」
- ・ 15:40～15:50 休 憩
- ・ 15:50～16:30 質疑応答
- ・ 16:30 閉 会

※懇親会は開催しません

## ■お問い合わせ先

全史料協近畿部会事務局 : 滋賀県立公文書館

MAIL: archives@pref.shiga.lg.jp 住所: 〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL: 077-528-3126 FAX: 077-528-4813